

コレクション展 2012-II ^{ブループリント} 青写真—記憶▶創造

2012年7月7日(土)～11月4日(日)

作品から読みとるさまざまな記憶、そして未来への青写真

本展では、過去の経験として個人のうちに留められている心象＝「記憶」、ここから姿を消す人の影をなぞった「シルエット」、そして1945年の夏に広島が経験した時間と惨劇の記憶としての「ヒロシマ」が表された作品を通して、不在の表象を考察します。

個人の「記憶」、そして人の「シルエット」としての作品たち

ここに存在しない人は、シルエットを手がかりに思い出されます。杉浦邦恵は、フォトグラムという技法を用いて、アーティストの姿を印画紙にとどめます。自身の特徴を語る特徴を持ち、影絵のようなシルエットとして表される作家たちは、不在であるもののその姿を容易に見分けられます。またイヴ・クラインは、インターナショナル・クライン・ブルーという自身の名を冠した、濃い影を思わせる青い顔料を体に塗り、より直接的な方法で身体をキャンヴァスにとどめ、自分がつねに共にあるということを示す友好の印として、自分をまさに象った、シルエットとしてのポートレイトを友人に送りました。

いかに記憶すべきなのか～ヒロシマの惨劇

時を刻むことで、過去という不在を生み出し続ける時間もまた、その経過の記録によって視覚化されます。太陽の光を集めて木を焦がすという方法で、時の経過を刻み付けるロジャー・アックリングの作品は、原爆投下後の広島で、人々を苦しめた灼熱を想起させます。片瀬和夫は、ヒロシマを追憶するための空間を出現させるべく、青い光に満たされた夜の間を作り出し、沈黙の時をもたらします。私たちはヒロシマをいかに記憶すべきでしょうか。経年とともに徐々に姿を変えていく性質を持つ鉄という素材を用いて、若林奮が再現したドームは、「広島県物産陳列館」と呼ばれていた、かつての堂々とした佇まいを思わせると同時に、原爆の熱風を受け、痛ましい姿となつてなお、いじらしくも存在し続ける遺構にも映ります。「オブジェを消せ」という啓示を受け、物質を介さない表現を目指した松澤宥は、言葉という手段を選び、時間の経過とともに最終的にはその言葉さえも消滅する「青焼き」で印刷しました。青写真は、来るべき将来が実現された時に、その役割を終えるのです。

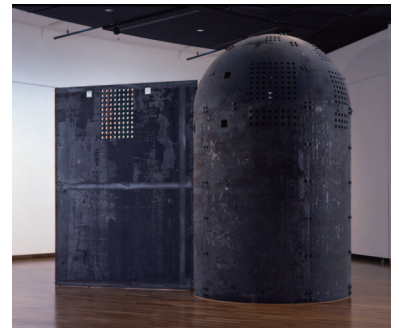
いまここにはない対象を懐かしみ、過ぎ去った時代を顧みるだけでなく、私たち自身を省みる場としても機能する、解放されたさまざまな記憶のかたち。それは、私たちの向かうべき未来の姿を示唆する青写真(ブループリント)であるといえます。そしてその設計図を実現するかどうかは私たちに意思にかかっていいるのです。



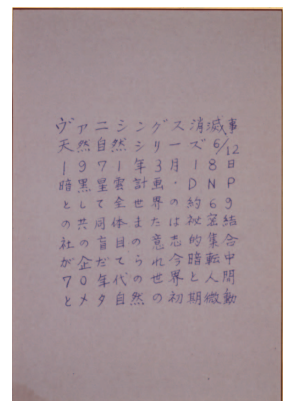
高松次郎
《影の母子像》1987-88年



片瀬和夫
《夜の間》1989/1995年



若林 奮
《DOME》1988年



松澤宥
《ハガキ絵画発信(ヴァニシングス 消滅事天然自然シリーズ)》
1970-71年

特別展示 ス・ドホ《ブループリント》

本コレクション展では、8月より開催する特別展「ス・ドホ in between」に先行してス・ドホの作品《ブループリント》を特別展示します。2010年ヴェネチアビエンナーレ国際建築展で発表された本作品は日本初の展示となります。

自身の暮らすニューヨークのアパートメントの^{ファサード}正面を半透明の青い布で再現した。浮遊するかのように軽やかに立ち現れる、今ここにはない建物は、ス・ドホの中に留められている「記憶」の投影とも捉えることができます。

●ス・ドホ (Do Ho Suh) / 1962年韓国ソウル生まれ、現在ニューヨーク、ロンドン、ソウル在住。ソウル国立大学卒業後アメリカに渡り、ロードアイランド・スクール・オブ・デザインで絵画を、イェール大学にて彫刻を学ぶ。移動やそれに伴うアイデンティティーの変化をテーマに90年代半ばより布を使った建築的作品や人型を用いた大型のインスタレーションを制作。

●特別展「ス・ドホ in between」/ 会期8月4日(土)～10月21日(日)。世界で挑戦を続ける韓流アーティスト、ス・ドホの全貌を日本で初めて本格的にご紹介する個展です。



ス・ドホ
《ブループリント》2010年
©Do Ho Suh

開催概要

- | | |
|--------|--|
| 【会期】 | 2012年7月7日(土)～11月4日(日) |
| 【開館時間】 | 午前10時 - 午後5時
※入場は閉館30分前まで |
| 【休館日】 | 月曜日(ただし祝休日と8月6日に当たる場合開館し、翌平日休館) |
| 【観覧料】 | 一般 360 (280) 円、大学生 270 (210) 円、高校生 170 (130) 円
※()内は30人以上の団体料金 ※小中学生と65歳以上は無料
※11月3日(文化の日)は全館無料 |

出品作家

イヴ・クライン、一原有徳、榎倉康二、エンツォ・クッキ、岡部昌生、片瀬和夫、工藤哲巳、杉浦邦恵、鈴木健之、ス・ドホ(特別展示)、高松次郎、デイヴィッド・ナッシュ、松澤宥、宮崎進、ロジャー・アックリング、若林奮



エンツォ・クッキ
《再びスマイルの花が開く》1983年

【同時開催】

- 特別展 解剖と変容：ブルニー&ゼマーンコヴァー
チェコ、アール・ブリュットの巨匠
2012年5月26日(土)～7月16日(月・祝)
- 特別展 ス・ドホ in between
2012年8月4日(土)～10月21日(日)

- 特別展 豊嘔 ふたたび虹のかたに
2012年11月3日(土・祝)～2013年1月14日(月・祝)
- 夏のワークショップ・プロジェクト2012
2012年7月21日(土)～9月17日(月・祝)
- 岡本太郎《明日の神話》原画 特別展示
2012年8月4日(土)～9月17日(月・祝)

広島市現代美術館(学芸担当:角 広報担当:後藤、鈴木)
〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園1-1
TEL/ 082-264-1121(代表)・082-264-1146(学芸直通)
FAX/ 082-264-1198
E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp